健康上よくない話

09 年の衆議院選挙において国民は選択した。長期に渡る政権維持で官僚と馴れ合いになり、腐りきった自民党の政治に見切りをつけ、引導を渡した。

民主党の改革路線に期待を抱き、政権を委ねた。官僚支配による利権構造、天下りの無駄遣いを正し、公務員改革を断行し、政治は政治家主導により行う。少なくとも民主党が政権を維持する任期 4 年間に、増税することはしない。国民はこの公な約束の元に民主党に国政を委ねた。国民は自分達が選んだ道であり、大きな期待を持って注視してきた。つぎつぎ選ばれた党首は奇妙奇天烈な政治を始めた。宇宙から来た人か、あの世から舞い戻った人かと、国民は首を傾げつつも、どうもよく分かん。新型を導入した際の初期不備というのかな。なんて大きな度量でもって見守った。

やがて、満を持していたかのように、栄養のいいメタボドジョウが出てきてコンニチハ、皆さん一緒に遊びましょときた。初期不備がまだ続いているのか、嫌な夢を見ているのか国民は不安になってきた。そんなことはお構い無しに、ドジョウは元気一杯、弁舌爽やかにぶちあげた。

『誰がやっても消費税の引き上げは避けては通れない、消費税引き上げという困難な課題を先送りする誘惑に負けてはならない』と。

国民は白けてしまう。消費税を上げる必要は十分に理解している。いまさらドジョウに云われなくても分かっている。その論調でお言葉をお返ししよう。

『行政改革という、困難ではあるが絶対にやらなければならない課題を放置し、消費税増税ありきのドジョウに負けてはならない』と。

1,000 兆円という借金を抱え、ますます高齢化社会に移行する日本、震災による復旧、社会に反した東電に起因する原発廃止の動きからの基幹エネルギーの高騰、長引きそうな超円高、欧州の経済破綻から世界恐慌の恐れ、貿易収支の赤字転落、等々不景気な話はやりたくはないが現実は厳しい。それでも日本国を立派に運営してゆかねばならない。消費税増税やむなしと了解した。

1 千兆円に比較したら、無駄の節約とか議員、官僚の優遇なんてスズメの涙といわれるだろうが、でもね、それが国民の気持ちっていうもんだらう。気持ちよく納得して増税を受け入れたいね。

民間平均年収 412 万円、公務員平均年収 638 万円プラスアルファ。国会議員のお手盛りの諸手当。政党交付金、政務費、文書通信交通滞在費、機密費、議員宿舎、秘書給与、立法事務費、無料パス、航空券、公用車、メて 1 人当たり 6 千万円。こんなバカな事に誰がした。

金が掛かって大変な商売なら、親子孫何代にも渡って政治家を家業とする大馬鹿野郎が居るかい。

メタボな柳川鍋じゃあ 酒もまずくなるというもの。

千載一遇のチャンス

昨年末、金正日がやっと亡くなった。自国の民、国際社会からも死を待望された、こんな人もめずらしいだろう。隔離された国の中で、人道上許しがたい状況が延々と続けられ、近隣諸国には核兵器、ミサイルをちらつかせ恫喝し、暴発したら大変なことになるとの恐怖を抱かせ、瀬戸際外交といわれる脅しの政策でたくみに渡ってきた。

この閉塞状態からの打開策が見出せないままに、この人物さえ居なくなれば、もしかしたら替わることが出来るかもしれないという一縷の望みを周りは抱いてきた。

特に日本では拉致家族の高齢化もあり、残された時間の経過にあせりを感じ、一刻も早くの願望がある。

世界が待ち望んでいた割には、あまりにも静かであり、一般には分からないだけで、実際には水面下でいろんな施策が講じられて居るのかも知れない。ならば待つしかないが。まさか現状を容認して、アメリカも中国も静かにしているのであれば最悪のシナリオではないか。

自国の内では、世襲正恩への権限委譲、体制の確立、偶像のでっち上げ工作が粛々と進められているようだ。父金正日と全く同じことを今後も継続してゆこうとしているのであろうか。

北朝鮮の現在の指導層は、金体制の維持のために、特別待遇で厚遇されてきた側近である。首領が替わってもその恩恵にはあずかりたい。横槍が入らないうちに正恩体制を固めたいのが本音であろう。

北朝鮮を当たり前の自由国家に導こうとするのなら、今が絶対的なチャンスの時ではないだろうか。

善良な北朝鮮の国民の幸せを回復させる為に、このチャンスを生かすことが出来なければ、国際社会はあまりにも情けないではないか。

ほんの一握りの人間だけが、飽食し、酒に浸り、肉欲に明け暮れ放蕩の限りをつくし、ブタのように太った裏側では、この寒空に十分な衣類も、家も無く、ひもじさに耐え、泥水に這いつくばり、一粒の食べ物を探し回る幼児のあることを国際社会は認識して頂きたい。

三代目の首領になる金正恩、自身が気が付き、改革開放、自由主義社会を構築できる今がチャンスであることを悟ってほしいものだ。このチャンスを逃せば自分の将来は無いと思うべきだ。

父親の金正日は、途中からの改革開放は出来なかった。改革は自身の死刑を意味した。

金正恩はまだ悪に手を染めていない。今なら助かる最後のチャンスだ。自分と一族がぬくぬくと暮らす道を選ぶのであれば、正恩に将来はない。父親と同じ様に生涯を放蕩生活で終えることは出来ないだろう。

世界の独裁者が、次々と民衆の力で断末魔を迎えている事実を知るべきだ。

時代は変遷している。北朝鮮だけが別ではない筈だ。